

## 序にかえて―大震災の教訓―

古来「地震・雷・火事・親爺」という。私は父が早く戦死したので、オヤジの怖さを知らないが、母や師事した先生は厳しかった。また高校二年（昭和34年）の秋、伊勢湾台風に襲われ、納屋が石灰の発火により全焼して、火事の恐しさを知った。

しかも、昨年（平成23年）の三月十一日に突発した「東日本大震災」は、わが七十年の人生において最大のショックな出来事であり、多くのことを考えさせられた。

そこで、昨年六月、大阪の公益社団法人「國民會館」から求められて書いたニュースレターの一部を左に転載し、その後最近のメモを付け加えて参考に供したい。

### 東日本大震災は天災か人災か

三月十一日に突発し今も余震の続く東日本大震災は、日本列島に住む私どもに深刻な課題を投げかけた。直接被災された方々の悲しみと苦しみは想像を絶するが、それ以外の人々も余所事では済まされない。

貞観（869年）以来といわれる大地震・大津波は、超弩級の天災である（拙稿「平安時代にも激発した大地震」WILL昨年六月号）。しかしながら、三陸沖では、明治（1896年）にも昭和（1933年）にも大地震・大津波に襲われ、合計四万余名が亡くなっている。それ以降、本当に有効な対策がとられてきたのだろうか。

まして約四十年前、この三陸に近い福島の海岸に原子力発電所を建設した。それに十分な安全対策を整えてこなかったとすれば、爆発事故は人災といわざるをえない。

### 現代社会の価値観を考え直す

しかし、その責任が歴代政府や東京電力にあるとしても、それを非難するだけで終わってはならない。そのような内閣や国会の議員を選び出してきたのも、また電力などを売買して大量の生産活動と贅沢な消費生活をしてきたのも、他ならぬ私ども国民だからである。

そこで、改めて現代社会を覆う価値観を省みると、「民主政治」や「貨幣経済」を過信してきたことに問題があるのではないか。

民主政治も貨幣経済も、その実態を直視すれば、現在の自分に有利か否かを考え、票数や金額の多少で割り切る。そのため、過去（祖先）も未来（子孫）も考慮しない利己主義、また社会（他者）にも環境（自然）にも配慮しない利己主義に陥り易く、往々にして質（内実）よりも量（外見）によつて良し悪しを決めてしまう。

もし、このような現代社会の在り方が、今回の人災を招いた要因（少なくとも背景の一因）だとすれば、これを機に大前提としてきた価値観を考え直す必要があるだろう。

### 両陛下の大震災即応に学ぶ

ただし、現代社会では、民主政治や貨幣経済よりすぐれたシステムが見当たらない。それゆえ現実的には、一般国民も「今だけ」「自分さえよければ」という利己的・利己的な考えを改め、可能な限り長期的・大局的な視野に立ち、各々の立場と能力を活かして、世のため人のために尽くすよう努めるほかないであろう。

その際、最高の御手本と仰がれるのは、今上陛下と皇后陛下である。今回の大震災にも、両陛下が直ちに驚くべき対応をされたことは、川島裕侍従長が『文藝春秋』の昨年五月号に詳述しておられる。また、陛下の御発案で五日後（16日）に録画し放映された「お言葉」や、七週間連続の被災地ご歴訪報道などから、その一端を拝察することができよう。

さらに、このような非常時に直面して、まさに超人的な即応をなさることができたのは、天皇陛下が御歴代の御仁徳を受け継がれ、また皇后陛下も幼少期より御修養に励んで来られたことを見逃してはならない（拙稿「両陛下こそ日本人の心の拠り所」WILLI昨年七月号）。

（以上『国民会館だより』第十九号抄録）

### 「世界の絆／命にありがとう」

年を越えて一月二十日朝、私は講演会に出るため宿泊した神戸のホテルで、NHKテレビの「課外授業—ようこそ先輩」を見て驚いた。シンガーソングライターの石井竜也さんが、

母校の北茨城市大津小学校を訪ね、六年の生徒たちと被災した時以来の辛い悲しい思いを語り合いながら、みんなで黒板に書き連ねた言葉をそのまま綴り合わせて、およそ次のような歌を作り上げ、直ちにギターで曲をつけて歌ったのである（メモ不正確）。

やつと気がついた／人は自然に生かされている／

何気ないものも大切なんだ／今ここに生きていられることに感謝したい／

人は一人で生きていけない／だからみんなで助けあうんだ／未来はみんなで作るのだ！

何と素直な何と力強いメッセージであろうか。しかも、これに無口だった女子生徒が手をあげて、「世界の絆／命にありがとう」という題をつけたのには、あらためて感動した。このような思いを私も大事にしながら、今後の人生を有縁の人々と共に歩んでいきたい。